

平成26年度第2回佐久市総合計画審議会第2部会 議事録

日 時:平成26年9月17日(水)

10:00~12:00

場 所:佐久市役所 501会議室

【出席者】阿部部会長、丸山副部会長、石井委員、春日委員、松田委員、半田委員

【欠席者】檜山委員、小林一成委員

【事務局】矢野部長、佐藤課長、若林補佐、小池

1 開会

2 部会長挨拶

3 議 事

(1) 第1回部会での意見に対する対応について

事務局より、前回の部会で出された質問・意見に対する回答や対応等について説明(資料4)

(質問・意見なし)

(2) 「目標」の進行状況の評価及び今後の方針の検討について

事務局より、第一次佐久市総合計画後期基本計画の第2章・第3章に掲げられた「目標」のうち、「やや遅れている」「遅れている」の項目について説明。その後、部会において審議。(資料2-2)

ア 第2章 「やや遅れている」「遅れている」の項目に対する質問・意見

(委 員)	No.26 「公共交通延べ利用者数」(212 地域交通ネットワーク) 公共交通はどこの市町村も同じ状況で、大型バスから小型バス又はタクシーへの転換を図っている傾向が全国的に見られます。色々な取り組みの中で、便利になる対策としてはやっていくべきだと思っておりますが、一人乗りの車が多い中で、車から公共交通機関への転換を図り、もっと効率の良い交通体系への研究を進めてはどうかと思います。例えば、外国では通勤時間帯の市街地への乗用車の一人乗り入れを禁止したらバスや電車への乗り換えが進んだ例があります。佐久では、小海線は高校生のための列車という感じがあります。大人や一般の社会人は数えるほどしか利用していません。本数が少ないのも確かですが、駅前に工場が多数立地しているところもありますので、車利用か
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>ら公共交通機関への乗り換えの方法で研究していただきたいと思います。常時3両編成で動けるくらいになれば状況はかなり変わってくるのではないのでしょうか。例えば電車からバスを乗り継いで来られるような工夫はできないのでしょうか。参考意見ではありますが、研究を進めてもらいたいと思います。</p>
(委員)	<p>以前は市役所で月2回ノーマイカー通勤をやっていたりしました。企業に呼びかけるためには市が率先して行うことも大切ではないでしょうか。</p>
(事務局)	<p>今でも毎週水曜日にノーマイカーデーを行っていますが、効果はまいちです。県でも、9月・3月に公共交通機関の回数券割引を行い、それに合わせてノーマイカー通勤月間を実施するなど工夫しているようです。また、市では運転免許証の自主返納者に公共交通機関の利用割引券を交付しております。極力、公共交通の体系を作る中で通勤通学時間は手厚く、昼間は少なめにという対応をしたり、千曲バスにダイヤ改正の際には小海線の接続への配慮をするようお願いしたりしております。研究に関するご指摘はそのとおりで、小海線がキーポイントであると思いますので研究を進めていきたいと思います。</p>
(委員)	<p>パルセイロの試合の際に運航するシャトルバスは混雑していますが、その利用者数は含まれているのですか。</p>
(事務局)	<p>臨時運行のため、含まれておりません。</p>
(部会長)	<p>今出た意見を踏まえて取り組んでもらいたいと思います。</p>
(委員)	<p>No. 29 「住宅マスタープランの策定」(223 住宅・宅地) 住宅マスタープランは作らない、という意味ですか。資料はいろいろ書いてありますが、住宅マスタープランがないと公営住宅関連の補助金がもらえないということではなくなってきているので、結果的には作らないという解釈でしょうか。</p>
(事務局)	<p>住宅マスタープランが住宅分野の最上位計画ではありますが、下位の計画が先にできている状況です。現段階において、担当課は明確に作ら</p>

	ないと判断しているわけではなく、むしろ必要と考えておりますが、社会状況が変わってきているので、それを踏まえて時期や内容をどうしようか考えることとなります。
(委員)	基本的に民間の動きがある中で公共部門がどう参画していくかという構図になると思います。他の部会に関連する部分ですが、佐久市は空き家バンクの利用がありますが、空き家は多く全国でもトップクラスです。市内には倒壊寸前の空き家もあります。安全確保の面からも空き家対策が必要な一方で、No. 27 で宅地面積を増やそうという流れもあります。宅地面積を増やすことは佐久市の発展、人口増加につながるという考えだと思うのですが、空き家との関連で総合的な住宅施策を考えていただきたいと思います。また、壊れて使い物にならない建物の撤去費用は市で補助できないのでしょうか。個人の資産形成に関わる部分に補助しないという基本的考えもあると思いますが、実際に倒壊した時の被害を考えれば違う面もあると思いますので、研究を進めてもらいたいと思います。また、県でも全国でも公共施設を増やすか減らすかが大きな議論になっています。市営住宅のみならず、市が管理している公共施設の長寿命化と増減は、意見調整しながら実施していただきたいと思います。
(事務局)	貴重なご意見をいただきました。古い空き家の問題は市としても認識しております。一方で空き家バンクを積極的に実施しているところです。この問題は土地利用として企画課で取り扱っておりますので、総体的に取り組みを進めていきたいと思います。
(部会長)	今出た意見を踏まえて進めていただきたいと思います。

イ 第3章 「やや遅れている」「遅れている」の項目に対する質問・意見

(部会長)	No. 31 「認定農業者数」(311 農業) 今後も引き続き達成に向けて取り組んでももらいたいと思います。
(委員)	No. 35 「佐久鯉出荷量」(312 水産業) 目標として鯉だけでよいのでしょうか。目標は変えられないのこ

	とですが、水産業と聞くとそう考えざるを得ないです。例えばフナなどはどうですか。
(事務局)	フナも減っています。ニジマスなど川魚は全体的にそういう傾向があります。信州サーモンやシナノユキマスなど新種の魚についてはPRを行ったりして普及しつつありますが、全体として出荷量の増加には結びついていない状況です。
(委員)	佐久鯉は、食べたことがないから分からないという人がまだ多いと思います。バルーンフェスティバルで旅館組合が鯉こくを無料配布すると、ものすごい行列ができます。そういったところを見ると、見た目や匂いで敬遠しないよう、PRや食べ方の工夫をすることが大事だと思います。
(事務局)	県でも10月に「信州しあわせシェアスペース」を銀座にオープンし、そこではキッチンがついています。担当課では、そこで調理を行って宣伝したいと考えているようです。
(委員)	鯉は稚魚から佐久で育てているのですか。それともある程度大きくなってから佐久に連れてきて佐久鯉とするのですか。フナの需要は実際は大きいと思うのですが、カラスや害虫の対策として水田で養殖していたのがそれでは退治できなくなってしまい、結果として飼っても採算が合わないから収量が上がらないという話をよく聞きます。普及のためには、採算に合わなければ生産量が減ってしまう、という部分を研究して対策を考えてほしいと思います。
(事務局)	佐久鯉についてはブランド化の一環で「佐久の清流で育った」鯉でないとその名前を使えなくなっております。水田での養殖に関するご指摘はそのとおりで、生産量を増やして出荷できるよう、ご意見として担当課につなげたいと思います。
(部会長)	今出た意見を踏まえて取り組んでいただきたいと思います。
(委員)	No.36 「森林整備面積」(313 林業) 国の補助が増える予定はあるのですか。

(事務局)	厳しいと聞いております。
(委員)	松くい虫の対策も遅れています。区では要望を出しても業者がないので駆除が間に合わないと聞きます。
(事務局)	森林整備の主力は森林組合であります。
(委員)	市が事業として行わないのが問題なのではないでしょうか。県有林・国有林など県や国は林業を行っていますが、市が事業を行っていないということは、市有林はあまりないのですか。現在の森林面積はどのくらいでしょうか。
(事務局)	平成21年度のデータで、森林面積が約26,000ha、これは市面積の62%程度になります。うち20,000ha超、5分の4が民有林、残りが市有・県有・国有となっております。
(委員)	友人から聞いた話では、私有林の整備はお金がかかるので、県や市で整備に対する補助を求めても金額が少なすぎて事業ができないそうです。荒れている山が多い中、市で取り上げていくか、民間業者を支援して整備していくのか考えたほうがよいと思います。また、森林保護は水資源の保護にもつながります。佐久ではまだ深刻な問題になっていませんが、ある程度手入れをしないと、自分で整備できないから外国資本に森林を売ってしまうという事態が起こりかねないと思います。
(事務局)	木の活用という面で、ボイラー・ストーブで使えないか研究したり、山の整備に力を入れたりしております。
(委員)	そういった燃料資源は民間の山から無料でもらえるようにして、費用は市からの補助で対応すれば、需要も生まれるのではないのでしょうか。
(事務局)	林業のみならず水資源などを含めて「山をどうするか」という視点で取り組むことが必要で、その前提で目標を定めさせていただいております。

<p>(委員)</p>	<p>森林整備は、造林、間伐をはじめ路網整備も含まれると思いますが、森林には防災の効果もあります。一斉林は根が浅く、深さが同じで光が入らず、草も生えない状態となりますので、そのような個所の間伐を進めてほしいと思います。雨が降ったら一気に地盤が崩れる危険性があります。健全な山肌にすべきです。数値は一つの達成目標であり、単なる材木の価値を向上させたいだけならば良いかもしれませんが、もっと多目的に考え、やらなければならない箇所があれば、整備効果の面から目標数値をどこどこに振り分けるのか優先箇所を考えてほしいと思います。単なる目標達成ではなく、荒れた山林があれば防災の面からはそこから対応すべきであるし、それで材木の価値が上がれば一石二鳥です。税金を投入した事業であれば尚更、森林整備計画の順番を見直していただきたいと思います。お話を聞く限りだと、面積が相当あり、あと100年くらい掛かりそうな印象です。20年、30年経てばもう一度間伐などの手を入れなければならないでしょう。人手もお金も限られた状況では、一巡するためは何をどうすべきかを中長期的に検討していただきたいと思います。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>この目標は林業に対する施策なので、分野が偏っていますが、ご指摘はそのとおりだと思いますので、ご意見をいただく中で考えていきたいと思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>No. 37 「市内への延べ入込客数」(311 観光) 原因はスキー客の減少だけですか。全県的な傾向はどうでしょうか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>県レベルでは把握しておりませんが、市では平尾山が最多です。2月の大雪でその利用者が落ち込んだことが原因だと考えております。</p>
<p>(委員)</p>	<p>この分析は、将来について語られていないと思います。一番問題なのは、軽井沢の観光客が非常に多いにも関わらず、それが佐久に流れてこないことではないでしょうか。軽井沢－佐久間の道路のアクセスも悪いし、宣伝も行き届いていないと思います。佐久は売り出せば効果のある場所が非常に多いはずですが。佐久市の場合、バルーンフェスティバルなど、市内で行うイベントに予算の多くを使って</p>

	<p>しまい、よそへの宣伝に使うためのお金が少なくなっているのではないのでしょうか。サミットの開催も有力なので、市としても売り込みをしていただき、軽井沢からの誘客を図ってほしいと思います。</p>
(事務局)	<p>担当課としては、佐久市の中でイベントを実施することと、軽井沢からの誘客を図ることの双方を重視しております。サミットやオリンピックについては、佐久市も誘致のために県や国に働きかけているところです。</p>
(部会長)	<p>来年はチャンス的一年ですので、働きかけを進めていただきたいと思います。</p>
(委員)	<p>観光客の数は、結果を特定するには一番良い数字ですが、その前に施策があつてこそ数字に結びつくのだと思います。目標には2種類あつて、結果も重要ですが、そこだけ見るとPRにいくら投じられているのかなど、目標達成のために実施された施策が見えなくなってしまう。これに限らず全部において当てはまるかといいます。</p>
(事務局)	<p>昨年いただいたご意見も踏まえ、資料作りをしております。施策の取り組み状況は結果の分析欄に記すこととしておりますが、投入コストは見えない面もあるため、今後の資料作成にご意見を生かしていきたいと思います。</p>
(委員)	<p>No. 40 「就職相談会参加者数」(351 就労・雇用) 就職相談の男女比率はどのような状況ですか。最近女性が東京に出てしまい、男女比率のバランスが崩れて地方の出生率が下がってしまうというような報道があります。もし佐久市でもそうならば、女性の就職を考えていく必要があるのではないのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>相談会に参加している企業は製造業・建設業が圧倒的に多いため、女子学生の参加が少ないそうです。</p>
(委員)	<p>魅力のある企業がないから佐久で就職しないという面はないですか。</p>
(事務局)	<p>大手・1部上場企業の説明会と日程をずらすなど、工夫はしており</p>

	ますが、なかなか集まらないようです。
(委員)	雇用してくれる企業を誘致することも大切だと思います。例えば、企業と取引のある銀行と連携して、誘致につなげることも必要ではないでしょうか。
(委員)	説明会は、学生のみが対象ですか。
(事務局)	Iターン・Jターンも対象としておりますが、人数として最多なのは学生とのことです。
(委員)	女性は一度都会に出て卒業後に戻ってくるが、地元で就職先がないという状況もあるようです。
(事務局)	就職相談の男女比率は、担当課の話では男性70名、女性40名。毎年同様の比率とのことです。原因としては、製造業や建設業が多いから、女性よりも男性に目が向いてしまうと分析しているようです。

(2) 「チャレンジ!!」の進行状況の評価及び今後の方針の検討について

事務局より、第一次佐久市総合計画後期基本計画の第2章・第3章に掲げられた「チャレンジ!!」の全項目について説明。その後、部会において審議。(資料3-2)

ア 第2章の各項目に対する質問・意見

(部会長)	211 高速交通ネットワーク 引き続き取り組みを進めていていただきたい。
(部会長)	212 地域交通ネットワーク 公共交通については、先ほど目標の審議で様々な意見が出ましたので、内容を来年度以降に生かしていただきたいと思います。
(委員)	221 土地利用 商業集積を行っていくとありますが、既に佐久市では飽和状態の感

	<p>があります。新たな商業集積を考えているのですか。現在ある商業地を活性化することの方が重要ではないでしょうか。</p>
(事務局)	<p>商業集積は、現実的には厳しい部分もあるが、上田のように進んでいるところもあり、佐久市の吸引力がなくなっている状況です。</p>
(委員)	<p>人によっては、これを読んで「何か新しいことを考えているのか、どこで考えているのか」と聞く人もいるのではないのでしょうか。まずは都市計画のマスタープランをしっかりと作り、その上で土地利用を考えていく必要があると思います。</p>
(委員)	<p>この分析の根底には、商業地を集積させればよいという考え方があると思うのですが、そうではなく、集積せずに再構築というか、リストラを図っていくという手法もあるのではないのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>資料のような取り組みを進めているところではありますが、ご意見が出ておりますので、今後の参考にしていきたいと思います。</p>
	<p>222 市街地</p>
(委員)	<p>佐久市は都市計画マスタープランを持っていますが、ここでいう「市街地」は土地区画整理事業だけをとらえるだけでなく、街路や公園の整備など、様々な側面から構成されているのだと思います。土地区画整理事業は地域の方の理解や市の熱意など、様々な要素が整ってこそできる話だから、安易に未着手と判断しなくてもよいのではないのでしょうか。マスタープランは10年計画であり、今年、来年で達成できるものではないでしょう。区画整理のできる個所を探しているというだけでもBでよいと思うので、事務局でも判断を検討してほしいと思います。もし反省すべき点があるのであればCのままでもよいですが、全く取り組みをしていないわけではないと思います。</p>
(事務局)	<p>担当課と話をした上で、委員のおっしゃったとおりならば表現を改めた上でBとしたいと思います。</p>

<p>(委員)</p>	<p>231 高度情報通信ネットワーク</p> <p>全体に関わる部分ですが、目標と違って、チャレンジはA B Cの判断が大雑把すぎて、少しでも取り組みがあればBになってしまうのが腑に落ちません。例えば松本の高規格道路は、要望活動をしているだけでもBになってしまいます。一方で、電子申請は目標は大きく上回っているのだから「達成」と表現しても良いくらいなのに、達成する数値が書かれていないからこれもBになってしまいます。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>事務局としても、言葉で書くだけなので、類型化をすること自体悩ましい部分がありました。チャレンジにはもともと数値目標がないため、達成度を表しづらく、3段階の類型だけでよいのかという議論をした経緯はありますが、実際に行っている状況を見ていただくためには、資料の見せ方としてある程度分類したほうが分かりやすいかと考えこのようなまとめ方をさせていただきました。ただ、ご指摘のとおり、項目によって温度差があるので、ご意見としていただき、来年に向けて研究を進めたいと思います。</p>
<p>(部会長)</p>	<p>今後の課題として検討していただきたいと思います。</p>

イ 第3章の各項目に対する質問・意見

<p>(委員)</p>	<p>第3章の名前にある「100万経済圏」の範囲を教えてください。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>大まかには、東北信と群馬の一部を入れた圏域を想定しております。東北信だけでは100万人に届きません。商業の吸引力では長野や群馬まで力が及んでいるので、範囲は広いがありえない圏域でもないと考えております。</p>

ウ 全体を通して

<p>(委員)</p>	<p>チャレンジの作り方について、個人的にはそれぞれの熱意が出ていて良いと思うのですが、内容を見ていて2種類あって、例えば「よい寿司を作る」といった包括的な内容のものと、非常にピンポイントな内容、例えば「マグロフライ寿司を作る」といった実現できたら褒めてほしい程度の消極的な内容のものが見られます。</p>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(事務局)	後期基本計画を作るときに特徴的なものを打ち出したいという話があり、審議会に相談して、「達成できるか分からないけど頑張ろう」という意味で「チャレンジ!!」を設定することにしました。第2次総合計画でも何か特徴的なものを入れたいと考えておりますので、ご意見としていただき、次の計画の検討に生かしたいと思いをします。
(委員)	観光について、佐久広域連合で力を入れていますが、全県レベルで見ても佐久地域ほど一生懸命な所はないと考えています。せっかくたくさん資源・素材が発掘されたのだから、それを発信することを考えてほしいと思います。例えばお客さんが来る際に口コミで来る方式、ガイドに書いてあって来る方式など、目や耳から入った情報が重要だと思います。佐久にはこういうものがある、いかがですかという情報を、単純に宿泊施設に提供するのではなく、丸ごとホームページに載せてはいかがでしょうか。聞かれたら小出しに出すのではなく、自由に見られる状態、自分で見て選択できる状態を作っておいてほしいです。情報そのものが磨き上がってなくても、一旦出してお客さんと一緒に磨き上げていけばよいので、ぜひやっていただきたいと思います。
(事務局)	広域連合も佐久市も大手旅行サイトと提携して情報発信をしているところですが、地元の人が何とも思わない情報が反響を呼んだりしているようです。担当課にも伝え、今後の取り組みに生かしていきたいと思いをします。

(3) その他

- ・次回会議の日程について連絡
- ・部会報告案については、部会長と調整のうえ、確認のため部会の全委員に郵送する。

4 閉 会